

好きな音のなる
浜田の木を
見つけてみよう!

樋口一成



- 1 うみかぜ保育園での様子
- 2、3 聖ハレルバナ保育園での様子
- 4、5 こくふ子ども園での様子

浜田市世界子ども美術館（島根県）において、2021年10月16日（土）から2022年1月10日（月）までの会期中、「音のなる木のアート展」が開催された。出品者は、私のほか、木工作家のつちやあゆみさんと吉竹宏泰さんであった。この展覧会は、浜田市世界子ども美術館が3年間に亘って進めてきた“木のアート”をテーマに展開する地域活性化を目指すプロジェクト「木のアートプロジェクト」の最終年の企画展であった。「木のアートプロジェクト」は、「①木を素材に制作発表を行っているアーティストの多彩な作品や表現を幅広い世代で紹介すること」②「浜田市に占める森林率、約8割という豊富な森林資源を活用し、地域の魅力を再発見してもらうこと」③「アートと“自然”、そして“人々”を結びつける、笑顔あふれるアート活動を提供すること」という3つの目的を掲げ、展覧会の開催と地域交流プログラムを実施するものであった。この3年間に開催された展覧会は、1年目「あそぶ木のアート展」、2年目「動く木のアート展」、そして3年目「音のなる木のアート展」であった。

今回は、展覧会と同時に、浜田市産の木材を使った幼児対象のワークショップの企画・実施の依頼も頂いた。美術館から送って頂いた8種類の材「サクラ」「クリ」「ケヤキ」「トチ」「ナラ」「ブナ」「ホオ」「ミズメザクラ」を手にしながら内容を検討する中で、「好きな音のなる浜田の木を見つけてみよう!」というワークショップのテーマに辿り着いた。子どもたちが浜田市産のいろいろな木材の音を聞きながら、自分が一番好きな音のする木を見つけた後、その木に好きな絵を描くというものであった。この活動を通して、子どもたちが木の心地よい香りや美しい木目にも気付いてくれればと考えた。そして、子どもたちがこれらの活動を通して、自分たちの住む土地の良さを再発見してくれればと思った。活動に参加して頂いた園や子どもたちは右記の表のとおりであった。

これらの活動に参加して頂いた園の先生方からは、次のような感想を頂いた。●木の匂いがすごく良かったです。また木琴のようにこんな素敵な音が出るんだと驚きました。特に高音の響きの木がすごく良かったです。連絡ノートで保護者の方がすごく喜んでおられる感想が多かったです。●子どもたちとの会話の中で家庭での遊びがゲームやYouTube視聴が多い様子が伺えます。デジタル時代の子どもの視、大人の感覚もだんだんそちらに流れがちですが、子どもの遊びの面では特に自然物に親しむことは大切だと思います。ゆったりと優しく、肯定的なお声掛けの中で良い時間が過ごせました。ありがとございました。●木に触れる機会がなかなか持てず、活動を考えとついDIY的なものを想像しがちでした。たくさんの手のひらサイズの木材を並べの中で、木を打ちつけたり、香りを嗅いだりと子どもたちの初めて見る姿が見られて嬉しかったです。今も木琴は子どもたち同士で交換して音を出したり、歌に合わせて叩いたりしています。他のクラスの子どもにもこうすると鳴るんだよ!と自慢しながら貸してあげます。とても楽しく参加させて頂きました。

ワークショップ実施日	園名	対象・人数
11月11日（水）	ながさむ子ども園	年長児 21人
11月18日（水）	うみかぜ保育園	年長児 16人
11月18日（水）	こくよ子ども園（伊田町部こども園併設）	年長児 18人
11月25日（水）	聖心ルパン保育園	年長・年中児 26人
12月2日（水）	おぐに保育園	年長・年中児 8人
12月7日（水）	みのり第2保育園	年中児 18人
12月9日（水）	れんげ保育園	年長・年中児 24人
12月14日（火）	三瀬保育園	年長・年少児 23人
12月15日（水）	今瀬保育園	年長・年少児 15人
12月16日（水）	ちどり第2保育所	年長児 24人
12月17日（金）	石見幼稚園	年長児 11人
12月21日（火）	黒柳保育園	年長・年中児 10人
12月23日（火）	おおぞら保育園	年中児 7人
12月24日（金）	四取保育園	年長児 15人
	合計14園	合計206人

<ワークショップ「好きな音のなる浜田の木を見つけてみよう!」の実施内容 >



二風谷アイヌクラフトプロジェクト : コシノジュンコ株式会社

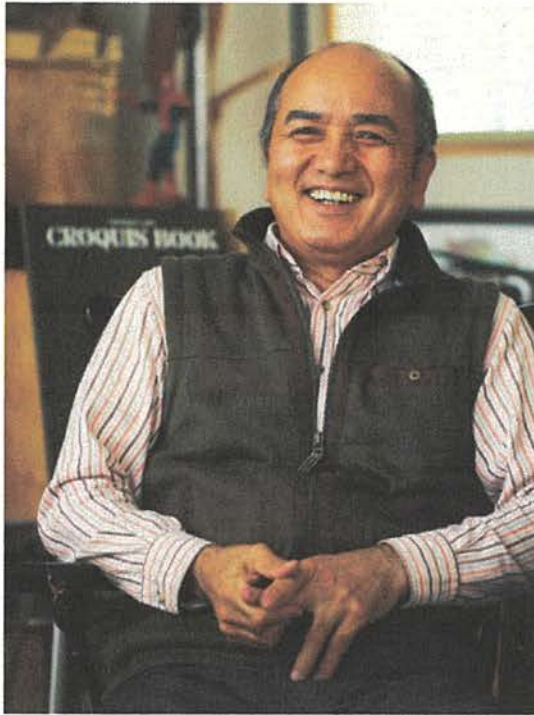
樋口一成 × 貝澤徹



カラカラセ



カリカリ



貝澤 徹 氏

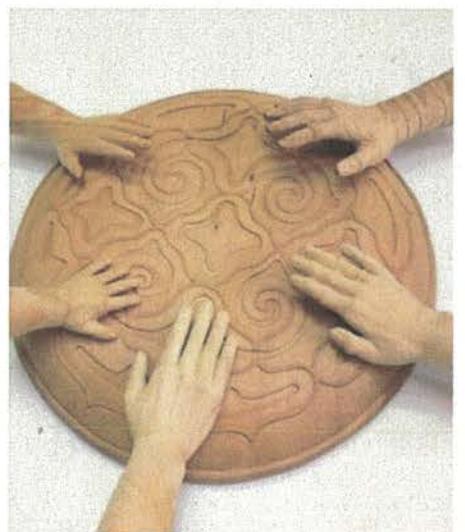
工芸家の父（勉）やその仲間の職人に囲まれて育つ。

曾祖父の貝澤ウトレントクは、明治時代に名工といわれた二人のうちの一人。

その曾祖父から引き継ぐ伝統を重視しながら、そこに独自の感性と技術をとけ込ませ、自分らしさやメッセージを表現する、独創的なアイヌアートに精力的に取り組んでいる。作品の一部は、大英博物館に所蔵されている。

北海道アイヌ伝統工芸展北海道知事賞ほか受賞多数。

「北の工房つとむ」店主。

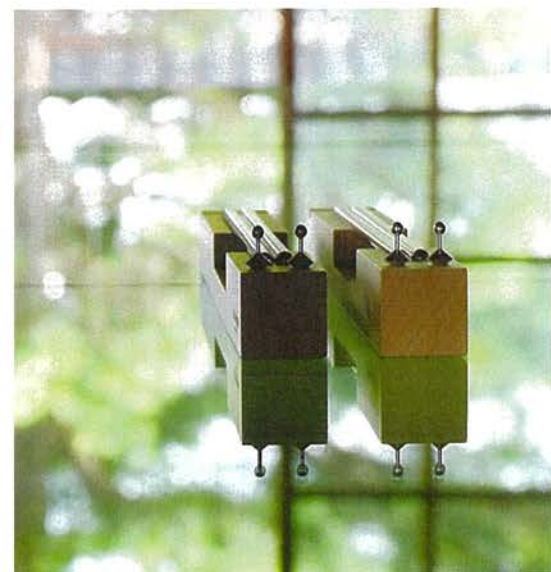




水、風、炎、草木… 自然の不規則な動きや音に趣や癒しを感じてきた日本人の感性を、
 モダンアートに落とし込んだGRAVIMORPH(グラビモルフ)。
 それはモノとモノ、モノと重力とが出会い、響き合う。プロダクトであり、アートであり、時間です。

Relaxation culture unique to Japan

日本には古来より「ゆとりある時間」を大切にする文化がありました。例えば、日本庭園で使われる「ししおどし」は、水の力を利用し不規則な静と動の動きを繰り返すことで生じる音で田畑を荒らす鹿や猪などを驚かすための実用品として元々は使われていましたが、その趣ある動きと心地よい音色が貴族や武士の心に響き、癒しアイテムとして長らく愛用されました。似たようなアイテムとして、風の力を利用した風鈴もあります。これらアイテムは、自然の力を利用した趣ある動きと心地よい音色が特徴で、日常生活にゆとりある時間を生み出す日本ならではの癒し文化の象徴です。



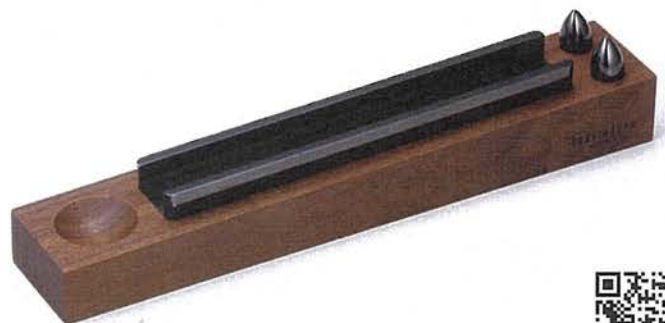


PREMIUM series

オリジナルのデザイン、最高難度の職人技術と特殊な加工方法、
そして高級木材を使ったフラッグシップシリーズ

SPINDLE

スピンドル



VIDEO >>

MADE IN SANJO



NIIGATA

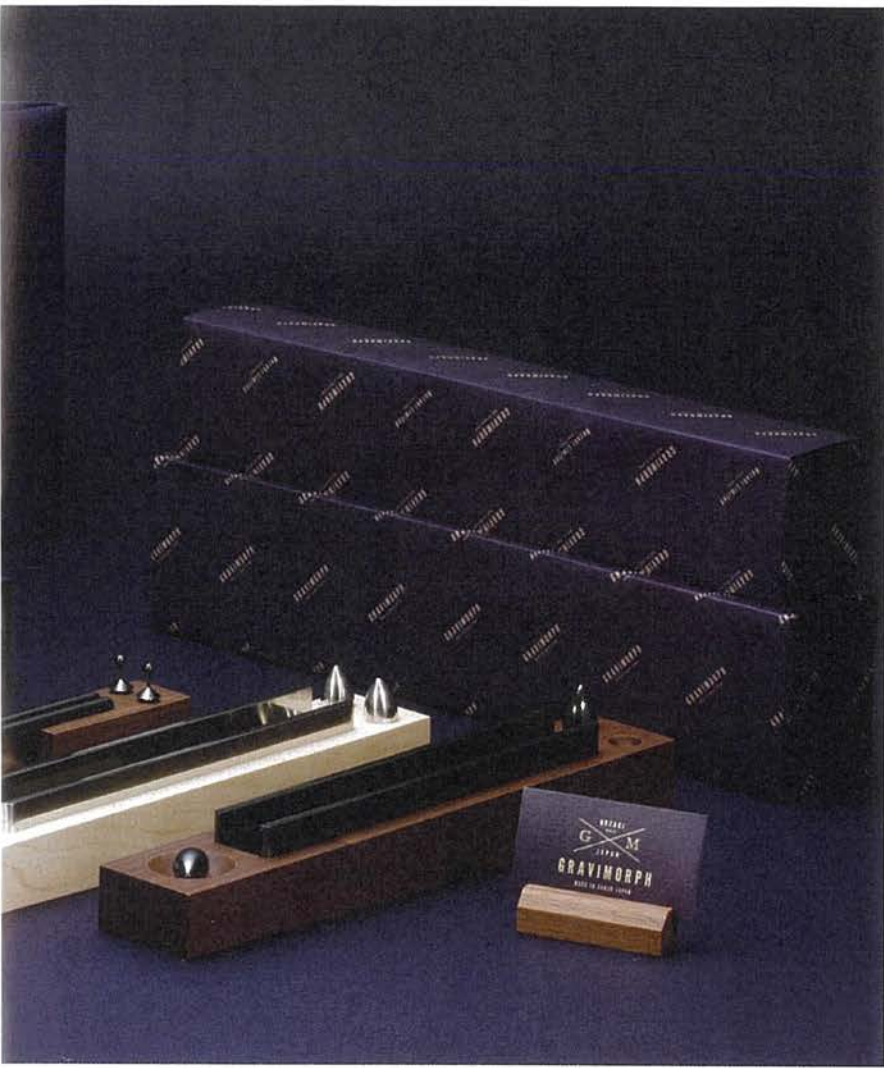
JAPAN

6

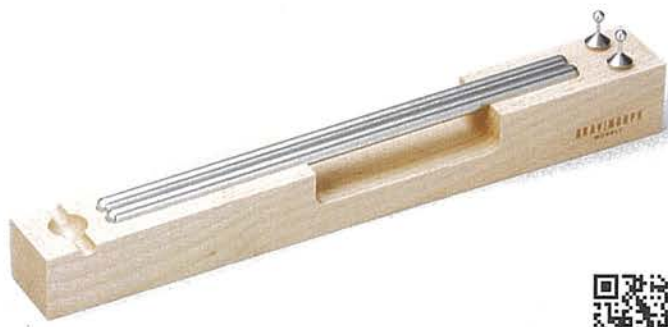
職人の街から世界へ

三条市の金属加工産業の歴史は、農民が副業として和釘を作り始めた江戸時代初期までさかのぼります。現在この地域は300以上の金属加工業、50以上の木材加工業、および関係企業が密集した産業集積地であり、日本有数のものづくりの街として繁栄してきました。野崎製作所は創業1902年、この地場で金属加工業を続けてきた会社です。以来、様々なアミューズメント製品、日用品、産業機械部品などを作ってきました。2018年、私たち職人とデザイナー樋口一成との偶然の出会いからGRAVIMORPHが生まれました。職人技術とユニークなコンセプトを組み合わせたGRAVIMORPHの世界をお楽しみください。

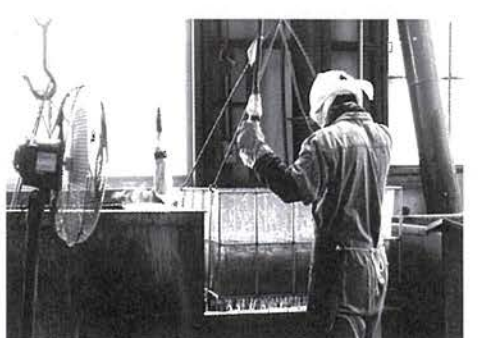




WOBBLY
ワブリー



VIDEO >>



デザイナー：樋口一成

愛知教育大学 幼児教育講座 教授。1964年大阪府生まれ。1987年より重力によって動く造形 (GRAVIMORPH) をテーマとする立体造形作品を研究・実践。1988～1994年1～7回全国ウッドクラフト公募展にて大賞・最優秀賞等を受賞。1997年Neaf AG (スイス) とデザイン使用権契約締結「Motus」「Ellip」。2011年飛鳥工房 (佐賀)・タカスガクデザイン (福岡) と共同開発した玩具「Donguri」グッドイ選定、2012年グッドデザイン賞受賞。



VIDEO >

GRAVIMORPH

野崎 翔太郎

Chief Operations Officer

株式会社 野崎製作所 / Nozaki Limited

新潟県三条市塚野目2134-1 〒955-0055

TEL 0256-32-3667

Email info@gravimorph.com

Brand site <https://jp.gravimorph.art>

<https://ja.gravimorph.com>

Company site <https://www.nozakilimited.co.jp>

Shop <https://gravimorph.shop>



SHOP



2020 商標権取得

